

科 目 名

建築計画Ⅳ

Architectural Planning Ⅳ

3年 前期 2単位 選択

西 郷 正 浩

概 要

建築のかたちや空間を計画する方法には基本的な型があります。この講義では、それら型の基本知識について事例を交えて概説します。内容は大きく3つのテーマで構成しています。まず、建築の発想方法と建築空間の構成方法を紹介します。次に、空間・かたちを生成する方法について、図形に対する人間の知覚特性と建築空間を定義する際に必要となるプロポーションを紹介します。最後に、抽象的なイメージから具体的な建築へと展開するプロセス（過程）、特に初期の段階のプロセスについて説明します。

学習目標

- (1) かたちや空間を構成するという感覚の習得
- (2) 構成方法の型を自らの設計へ応用する力の習得
- (3) 理屈を考えながら構成する力の習得
- (4) 設計プロセスの理解を深め自らの設計時に意識できる力の習得

授業計画

テ ー マ	内 容
① 建築の発想方法	象徴、幾何学、彫塑、定型、設計条件、技術
② 建築形態と幾何学	円、三角形、正方形、幾何立体
③ 2つの空間の構成手法1	空間の中の空間、貫入する空間、共通の空間でつながる空間、近接する空間
④ 2つの空間の構成手法2	境界を形成する要素とその形態操作、見えない壁をつくる
⑤ 2つの空間の構成手法3	きりながらつなぐ曖昧な境界、床・壁・天井による空間構成と形態操作
⑥ 複数の空間の構成手法1	分割と連結、求心的な構成
⑦ 複数の空間の構成手法2	房状の構成、線的な構成
⑧ 複数の空間の構成手法3	放射状の構成、格子状の構成
⑨ かたちの原理	ゲシュタルト心理学の基本、「図と地」とその相互作用
⑩ 寸法・プロポーション1	人体、ヴィトルヴィウス、黄金比と $\sqrt{2}$
⑪ 寸法・プロポーション2	コルビュジェによる寸法体系、日本における寸法体系、外部空間のプロポーション
⑫ プロセスと表現方法	カーンと菊竹の設計プロセス、抽象から具象へのプロセス展開
⑬ 初期プロセスの図と模型	ダイアグラム、ゾーンニング図、動線図、ブロック・スラブ模型
⑭ 建築設計とコンピュータ	CAD/CGによるプロセス、CGの再現性、新しいデジタルツール／授業アンケート
⑮ 定期試験	学生自身による自己評価

授業方法

説明と事例紹介で行い、画像・VTRを用いてビジュアル化に勤めます。
各段階で4回のレポートを課します。

学習到達度の評価

- 1) 講義中に学生に質問し、また、学生から質問を受け回答し理解度を促します。
- 2) 講義内容に演習的要素を取り入れ、理解度を促します。
- 3) 講義毎に簡単なアンケートを実施し、授業方法への要望を受け改善し、質問を受け回答することで理解度を促します。
- 4) 段階毎にレポートを課し、理解度の確認、復習、発展学習を促します。

評価方法

レポート40点、試験60点で評価します。レポートは提出期限を厳守して下さい。
レポート未提出（期限後を含）の場合、受験資格はありませんので注意して下さい。

教科書・教材

配付プリント、日本建築学会編「第3版コンパクト建築設計資料集成」丸善

参 考 書

フランシスD・Kチン（太田邦夫訳）著「建築のかたちと空間をデザインする」
森北出版高橋研究室 編「かたちのデータファイル」彰国社
川崎 清 他著「設計とその表現」鹿島出版会
都市デザイン研究体 著「日本の都市空間」彰国社

履修上の注意

紹介する事例には、「くまもとアートポリス」参加作品を多く含めています。自主的に実物を見学し、講義内容の確認及び内容を発展させて下さい。また、講義内容を手掛かりとして、建築専門雑誌に数多く目を通すようにして下さい。

オフィスアワー

適宜、昼休み（12：00～1：00）に研究室にて講義内容に関する質問を受付ける。